

会津若松城南 RC 例会卓話 26, 1, 21(火)

RI 第2530地区 クラブ奉仕委員長 比佐臣一

国際ロータリー第2530地区クラブ奉仕委員長の比佐臣一です。所属はいわき小名浜 RC、職業分類は、医療管理であります。

このたび、お声をかけてくださった渡部(わたなべ)会長さん・小川幹事さん・大塚地区会員増強委員長さんはじめ会員各位に深く感謝申し上げます。

本日は新しい会員の方が2名入会されることを伺い大変うれしく存じております。心から祝福申し上げます。

まず最初に会津と私の御縁について語らせていただきます。

今から65年前、昭和24年夏、私は小学校5年生でしたが、先生引率の下、約30名の希望者が、憧れの磐梯山へ登りました。その時磐梯山の高さが1819メートルであることを知りました。そして、昭和28年、翁島の高松宮ご別邸(今の天鏡閣)周辺で福島県教育委員会主催の第1回青少年ジュニアリレーション大会が開かれ湯本一中代表として参加いたしました。私の少年時代、そして青春時代の大切な思い出の舞台となったのが会津であります。

そして歴史を振り返れば、幕末、水戸・尾張・紀州の御三家はもとより、譜代大名のほとんどが、薩長側にすり寄ったとき、孝明天皇から松平容保公への直筆の文書が証明する通り、時の天皇の信頼を得て、一人会津藩は、藩祖保科正之公の遺訓をまもり、右顧左眈せず、大儀に殉じたのであります。そうした苦難の歴史を乗り越えて、八重の桜が花開き、近代日本の発展に貢献した幾多の人材を輩出いたしました。

会津の歴史と会津魂に対して私は、深い敬意を表するものであります。

地区のクラブ奉仕委員会は、クラブの応援団であります。クラブの機能を充実させるために全力を尽くします。

ロータリーの原点は『他人のことを思いやり、他人のために尽くす』ことでもあります。

ロータリーとは『分かち合いたい、奉仕したい、手を貸したいという願望に基づく世界的運動であります。』『ロータリアンの願いは、他の人の不幸や悲しみへの思いやりの心』を実践することでもあります。人間の生き方は、百人百様であります。私は、我がことのみを主張することでは決して本当の幸せはやってこないと考えております。まずは目の前の誰かの幸せを願いつつ、結果的には、その相手の笑顔の先に自分自身の幸せが待っている。

私の好きな禅宗の言葉に、我逢人(がほうじん)、我、人と逢うなり。人と人との出会いの大切さを三文字で表した言葉であります。

人生は、人と逢うことから全てが始まります。正にロータリーの魅力を表現していることばであります。湯本温泉生まれの私は、小名浜 RC に入ったお陰で、一挙に自分の世界が拡がり、町中の錚々たる異業種のメンバーと親しくなりました。地域で活動するのにストレスが無くなり、人間関係が分厚くなり、仕事も大変やりやすくなりました。いわき市内や福島県内はもとより、東京や長崎まで友情のネットワークは拡がっております。ロータリーに入らなかったら、小名浜

周辺しか分らない井の中の蛙で終わったことと思います。

11月16日、第2530地区指導者育成セミナーが開催され、特別講師は東京銀座ロータリークラブ所属のバスター市川伊三夫先生でした。先生の講話にすっかり感動した私は、夜開かれたRI会長代理歓迎晩餐会で、すぐさま市川先生に挨拶し、カメラマンを呼んで一緒に記念撮影を行いました。その縁で年賀状のやり取りが始まりました。

特別講演で先生は、こうおっしゃいました。『会員増強、クラブ活性化に関して、傍観者が多すぎる』『統計を取ってみると、ロータリアン100人のうち、80人は過去15年間にただの一人の新会員も勧誘しなかった』『困ったら立ち上がれ、障子を開けて外を見よ。外には悩みを解決するヒントが必ずある(豊田佐吉翁)』

私がここ一年語り続けていることばがあります。『動けば明日が見えてくる』

私たちは誰かの推薦によってロータリアンになりました。今度はお返し番であります。評判の良い人、あの人ならと思う方々のリストを作り、明日からすぐに動いてみてはいかがでしょうか。『動けば明日が見えてくる』等であります。

私たちの周囲には、ロータリーから一度も入会を勧誘されなかった人が沢山いるはずであります。入会するしないはともかく、少なくとも全会員が、必ず一人の会員候補者を推薦し、会長幹事、増強委員会は、会員からあつめた推薦者一覧表を作成し、早速動いてみて下さい。これがサクジ作戦であります。『動けば明日が見えてくる』のであります。

幾つかの提案をさせていただきます。

- 1、 会員増強計画の成否は、クラブの会長・幹事・増強委員長の強い意志次第であります。
- 2、 今日の全力が、明日の最善を作ります。
- 3、 他人任せでなく、傍観者でなく、会員一人一人が、自分で新会員勧誘実現の風を起し、その風に乗ってほしいと願っております。
- 4、 毎月の定例理事会では、必ず会員増強を議題として取り上げて下さい。
- 5、 クラブ内で、特に顔の広い人には、特段の熱意を持って増強への協力を懇請していただきたいと思ひます。
- 6、 毎月のガバナー月信の『毎月の地区出席率報告』に注目し、地区内クラブの会員数の動向を理解し、反省し、計画を立てることが肝要であります。
- 7、 7月に全会員に配布された冊子『ロータリークラブにお入りになりましたか?』を積極的に活用して下さい。
- 8、 知ることは愛することあります。情報委員会は、新会員セミナーだけでなく、随時、例会の時間を活用し、ロータリーに関する知識や情報を会員に周知する努力を重ねて下さい。
- 9、 毎年度、5月まで営々と会員増強に努力してきた各クラブの1年にわたる奮闘努力が、年度末の6月になって、退会者が多く

なり。目標が未達成と

あります。例会欠席の多い会員、例会で孤立している会員への気遣いと対応は、会長さんが率先して早めに行ってください。退会懸念の情報に接したら、会長さんは、先頭に立って退会防止に努力してください。

10、私達は、ロータリアンとして、世界中で良い事をしているんだ、と確信し手を携えて、クラブ活性化に向けて前進したいと存じます。

『人生とは素晴らしい。一心不乱に努力する人には、天は人智を遥かに超えた不思議なほどの出会いを演出してくれる。』この言葉は、平成19年11月、第17期中小企業家同友会大学の講義で、『森は海の恋人』で有名な畠山重篤先生から伺った言葉であります。

自分の職業を大事にし、クラブの仲間を大切に、地域社会で、自分たちが他の人のお役に立てることに全力投球したいものであります。

ロータリアンは、人間社会の未来を照らす灯台のような存在でありたい。

往年の名女優オードリー・ヘプバーンは、かつて少年たちを前にこんな言葉を語っております。

『大人になったら自分の手が二本あることを思い出してね。1本の手は自分自身のために、そして、もう1本の手は、他の人を助けるためにあるんだと。』

それこそ ロータリー！

↑ The second hand is to ~~help~~ help others. ↓

それこそ 真のロータリアン！ではないでしょうか。

ご静聴戴き、心から感謝申し上げます。有難うございました。